

鋳物用木型の松田木型製作所

アルミ切削加工に参入

24年に
新工場



松田社長

鋳物用木型などを製造・販売する松田木型製作所（本社・埼玉県羽生市、社長・松田幸浩氏）は2024年を

めぐりにアルミ切削加工に参入する。機械加工などの現有ノウハウを生かし、事業の柱を増やして長期的成長を目指す。新事業開始に向け現有工場の隣接地を取得し新工場を建設する計画。五面加工機など複数の機械加工設備を導入する。投資金額は建屋・設備合計で約4億円となる見通し。木型を供給する鋳物メーカーから切削など機械加工も一括で新たな請け負い、顧客の利便性を高めつつビジネスを拡大。また同社を敷地内に置くアルミ鋳物メーカー田島軽金属と連携し、木型・鋳物

機械加工まで一貫してユーザーが現地で品質確認できる体制をつくりPRに貢献する考えだ。

新事業では木型用樹脂の切削加工で培ったノウハウや木型製作時のデジタルデータ活用により、精度・納期の両面でメリットを創出

する。鋳物メーカーを主力顧客に位置付けるが、それ以外の企業も含めた新規顧客の開拓も進める方針。

5月までに建屋建設に着手。24年内の稼働を目指す。新工場の建築面積は約5000平方メートル。大型のアルミ素材を機械加工する考えで、5層×2・5層までの製品に対応する五面加工機1基を導入する。そのほか機械加工設備2基を配備する予定。アルミ以外の金属の機械加工も検討する。

は「若手社員が定年まで働き続けられるよう、事業の長期・安定的な成長を目指していきたい」と話している。

松田木型製作所は1991年に埼玉県八潮市で創業し、2012年に現在の立地に移転。従業員数は16人で、鋳物製造用の木型のほか、樹脂真空成型品製造用の型なども製造している。



本社事務所・工場
(埼玉県羽生市)

アルミ切削加工への参入で今後3年内をめぐり、売上高は約3億2千万円への倍増を目指す。併せて人員体制の拡充も進める方針。松田社長